

虻川下流域三六災害体験談(33)

連載最終 虻川とともに生きていくためには

原 章（古畑）

☆虻川は、時としてアブな
くなる☆
普段は静かに流れ、子どもたちも遊び生活にも役立っている虻川ですが、三六災害では一変し非常に危険な川となりました。そのことを詳しく知りたいと、体験者に話を聞いて回ったというわけです。伺ったお話は尊く私個人が知っていたら済むものではありませんでした。そんな三六災害を体験した地域として、上流の浸食激しい急傾斜地にリニア大量残土を谷埋め盛り土で処分することが受け入れられるのでしょうか。こういったところから、この連載は始まりました。連載を進めるに当たり、虻川の災害から身を守るこ

とを第一に、精一杯深く深く聞き調べ考えました。虻川に関わって生きる過去現在未来の全ての人々に対しても相談する気持ちでした。☆虻川への関わりはどうあるべきか☆
三六災害のような過去の災害や自然の摂理に謙虚に学び、流域全体に目を配り危険性を高める環境に手を加える行為をやめ、三六災を超える大災害に對しても可能な限りの備えをすることだと思えます。特に自然の虻川が時に牙を向けることがあっても、身に降りかかる災害を自らの手で大きくしてはなりません。



三六災害で埋まってしまった虻川

昭和七年に現在地で、四人きょうだいの長男（男三女一）として生まれた。当然のことながら跡取りとして運命づけられていた。父親が教員であったことが照さんのその後に大きく影響を与えた。小学生の時、ジフテリアを患い一時は死の淵をさまよったが奇跡的に助かった。やがて中学一年の時終戦となり、親の勧めで将来は農業の道へ進むべく下農へ進んだが本人は農業の将来に疑問を感じており親にその旨を打ち明けた

ところ、自由にして良いと言われ他の道を模索すべく信州大学へ進学した。当時大学へ進む人は徐々に増えつつあったがまだ少なく、親に感謝であった。大学ではもともと電気に興味があったこともあり物理を中心に学んだ。当時世の中で認知されつつあった太陽光発電に強い興味を持った。卒業間際肺結核にかかり一年間病院で過ごしたことで人生への考え方が大きく変わった。『健康第一、しなくても済むことはない』である。こうして二年遅れで富山小に赴任したのが長い教員生活の始まりであった。以後はほとんどを専門教科を理科として中学校に任された。親の面倒を見たいとの理由により自宅から通えるよう近隣地域に勤めたいと希望を出し、それを聞き入れてもら

のために地下水を汲み上げ過ぎたり、エネルギー確保のため無計画な水力発電に利用したりしたためです。アメリカの穀倉地帯やアラブ海など調べてみてください。ここでクイズです。家にトイレがなく外で用を足す人は世界で何人でしょうか？答えは後にして、トイレの無い生活を想像してみてください。そしてそれは衛生的でしょうか？トイレ以外での排泄が原因で下痢になり一日八百人以上が命を落

としており、世界の五歳未満の子どもの死因の八%が下痢だそう。さまざま問題に繋がっていると思えます。深刻です。この目標6に対して私たちにできることは何かを考えてみましょう。①上下水道について考え、調べてみる ②*バーチャルウォーターを考えて地産地消を心がける ③水を飲み、物を食べ、排泄することについて考えてみる 私たちは水に関して恵ま

あったが、その後畑への平地にも広げ、現在では太陽光畑（筆者命名）と称するまでに拡大している。当時太陽光発電はまだ珍しかったため、見学者も多く新聞に載ったりもした。三十歳の直前に、同僚からの紹介により川中島出身で四歳下の静子さんと結婚した。飯田保健所に農村医学の保健婦として赴任していた。静子さんは頑固な照さんに愚痴をこぼすことも無く連れ添い五十歳まで県職として働いた。その後は家庭に入り農業に従事した。趣味はクラシック音楽鑑賞、それに子供の頃から続いている物作りである。後者では部品を購入しラジオ、テレビなどを何台も手作りした。音楽は耳が遠くなってきたこともあり、最近ほとんど聞かなくなっている。さらにニジマス、アマゴなどの養殖を定年前から始め二十一年近くにわたり続けた。酒、タバコには一切縁が無く小遣いは物作りに注ぎ込んだ。健康面では小学生時のジフテリアから始まり肺結核、

文責 桐崎 一

アジアで初めて開催された冬季オリンピックは、一九七二年（昭和四十七年）の札幌大会である。当時私は高校三年生。記憶に残っているのは、スキージャンプと女子フィギュアスケートである、スキージャンプ七十m級（現在のノーマルヒル）では、笠谷が金、金野が銀、青地が銅と表彰台を独占した。女子フィギュアスケートはアメリカのジャネット・リン。フリーの演技で転倒尻もちをつきながらも終始笑顔で滑り、銅メダルを獲得した（フリーは一位）。愛くるしい笑顔から、十八歳の少女は「札幌の恋人」

「銀盤の妖精」と呼ばれた。テーマソングは『虹と雪のバラード』。レコード各社の人気歌手の競作だったらしいが、私にはトワ・エ・モアしか記憶にない。爽やかさと美しいハーモニーに惹かれた。アスリート達を鼓舞し、背中を押すような歌ではないが、おおかでのびやかな歌であり、招致を喜び祭典を祝う楽曲となっている。♪町ができる美しい町があふれる旗叫びそして唄♪♪ぼくらは呼ぶあふれる夢に ああ星たちのあいだに♪ NHKは河野文一郎氏に作詞を依頼した際、①オリンピックが終わっても

長く歌い継がれるもの②オリンピックを待ち焦がれる札幌市民の心を表した③誰もが簡単に口ずさめて合唱できるもの、という三つを要望したそうだ。果たして、『虹と雪のバラード』は美しい町の創出と人の集まりをイメージさせ、誰からも親しまれ歌い継がれる歌となった。オリンピックを機に札幌には地下鉄が走り地下街ができ、レガシー（遺産）となった。札幌の知名度が上がることも施設の充実により、スキージャンプのワールドカップが招致されるようになった。これもレガシーである。『虹と雪のバラード』は高校の音楽教科書に何度か掲載されるなど、今でも学校の唱歌として



大倉山ジャンプ競技場にて

使用されていると聞く。『虹と雪のバラード』もレガシーとなった。ターゲットは全部で八。内、具体的な目標六つ。具体的目標を達成するための方法二つです。安全に管理された飲料水を使用できる世界人口の割合は七十一%。しかし七億八千万人の人が基本的な飲料水サービスを受けられていないそうです（二〇一七年）。他国の飲料水事情をあまり知らないことがトンガでの火山の大噴火の一件

物作り心が高じてなし得た太陽光畑 シリーズ「元氣な高齢者」(87) 小澤 熙さん 八十九歳 北垣外在住

あつたが、その後畑への平地にも広げ、現在では太陽光畑（筆者命名）と称するまでに拡大している。当時太陽光発電はまだ珍しかったため、見学者も多く新聞に載ったりもした。三十歳の直前に、同僚からの紹介により川中島出身で四歳下の静子さんと結婚した。飯田保健所に農村医学の保健婦として赴任していた。静子さんは頑固な照さんに愚痴をこぼすことも無く連れ添い五十歳まで県職として働いた。その後は家庭に入り農業に従事した。趣味はクラシック音楽鑑賞、それに子供の頃から続いている物作りである。後者では部品を購入しラジオ、テレビなどを何台も手作りした。音楽は耳が遠くなってきたこともあり、最近ほとんど聞かなくなっている。さらにニジマス、アマゴなどの養殖を定年前から始め二十一年近くにわたり続けた。酒、タバコには一切縁が無く小遣いは物作りに注ぎ込んだ。健康面では小学生時のジフテリアから始まり肺結核、

「目標6 安全な水とトイレを世界中に」～SDGsって何⑨～ 公民館長 市澤和宏

「世界トイレの日」 (答え 日本人口の五・四倍六億七千万人) *「農産物や製品を輸入することはその生産物をつくるのに使われた水を輸入していることと同じ」という考え方 (参考文献:「数字でわかる! こどもSDGs」)

甲狀腺がん等患ったが幸いにも克服してきた。そして今では心臓、腎臓、前立腺などに疾患があり十種類もの薬を飲んでいる。決して健康とは言えないのかもしれませんが。しかし脚力は多少の衰えはあるが、家の周りの散歩は欠かさない。学習意欲は衰えることが無く、定年退職後、市民開放講座を受講し六十五歳から二十一年間松本まで毎週通った。前述の疾患があったことに關して、医学の知識を得たという願望によるものだ。公務は教員という仕事柄地元との結びつきが薄かったこともあり不得手であったので、区委員、寺委員など関わるのがなかった。話は飛ぶが、村へピアノを寄付できたことは社会への感謝の気持ちである。現在でも車を運転しているが、最近の高齢者による事故を見るにつけ細心の注意を払うよう改めて気を引き締めている。夫婦二人での生活で些細なことで衝突もあるが穏やかに暮らしている。



「豊丘村民話集」より

鬼面山山麓物語

鷹見栄雄

豊丘村の裏の山並みを見ますと、八つの峰が屏風のように仲よく立ち並んでおります。喬木境に黒だるがあり、鬼面山、大立山、長老、せばやし、熊の山、のた山、鼻こすり、これを八判の連峰といひます。

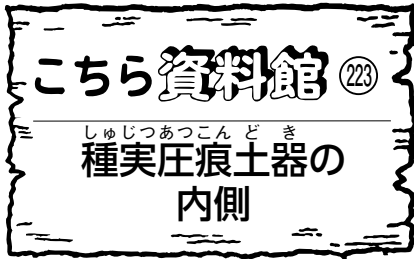
その中で一番高い山が鬼面山で、その山裾の谷間に四つの小屋場があった。そこを土の小屋、棚小屋、岩小屋、焼小屋といった。里の人たちが山仕事をすのに、毎日家から通うのには遠くてとても大変なので、そこで小屋がけをして泊まり込んで、屋根板を剥いだり、炭を焼いたりしたのであった。

土の小屋のあるところを塩市平(シオジダイラ)といい、広い平らなよいところで、そこには根本の直径二メートル余りの、それは

それは見事な大とちの木が高く、そして幅広く枝をはって立っていた。

話は、ずっとさかのぼり大昔のこと。この土の小屋に、みたところそれはそれは恐ろしい顔をした山賊の親玉が、幾人かの手下を連れて住んでいた。里の人たちはこの山賊を鬼だ鬼だと恐れて呼んだのでした。鬼面山は今でこそ村で一番高い、そして丸い、名とは似ても似つかない、誰にも好かれ愛される優しい山ですが、当時は自然林が生い茂り、夕やみに沈む鬼面山は、髪を振り乱した鬼の面そっくりだった。それで人呼んで鬼づら山と呼んだのでした。子供がムツがったりいうことを聞かないとき、あの山の鬼が来るぞと脅したといい、大人でも気味の悪い山だった。

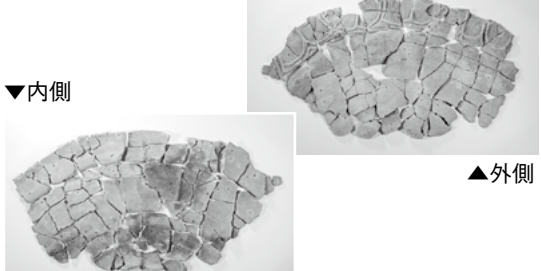
さて、山賊の親玉は大酒飲みで、いつもすすで真黒くなった酒樽におつかつ



展覧会出品のため仙台にある「地底の森ミュージアム」に行っていた「種実庄痕土器」と「パン炭化物」(いずれも伴野原遺跡出土)が、昨年未帰ってきました。その時いただいた図録に「種実庄痕土器」(野生のアズキが約三百粒も練り込まれて焼かれた縄文中期の土器)の外側と内側の写真が掲載されていたので紹介します。写真をご覧ください。右が「外側」、左が「内側」です。「外」と「内」は互いにひっくり返したものとすなり

ます。普段の展示は外側を

見せていますので、内側を見ることはできません。私も写真ですが、内側を見るのは初めてでしたので、正直言って新鮮な驚きを受けました。



返却においでになった「地底の森」の平塚幸人学芸員によると、「内側に水によってできたと思われる線が何箇所かついていて、煮炊きに使用していたことがよく分かります。しかし、食べ物が付着したような箇所は確認できませんでした。

所は確認できませんでした。た」とのことでした。この土器は、昭和五一年、住居跡の入口付近で発掘されましたが、元々煮炊きに使用されていた器を埋蔵(子供の丈夫な成長を願い、胎盤等を入れて住居の入口付近に埋めた縄文時代の器)として再利用したものであることが、今回さらにハッキリしました。

「ダニが刺したら 穴2つは本当か?」 島野 智之(著) 風濤社 私たちの生活の中にある小さなダニ。赤いダニ、カベアナタカラダニは、花粉

豊丘の郷土資料を集めています 豊丘村図書館・資料館では、豊丘の偉人について書かれた(記録された)古い資料を寄贈して下さる方を探しています。

例) 神稲人物誌、河野村誌略、豊丘村民話集、下伊那史4巻、下伊那誌気象編、堀越のあゆみ、など お心当たりのある方は豊丘村図書館・資料館までご一報ください。 電話: 35-2286(図書館) 35-9066(資料館)

△移動図書のご案内▽ 三月の移動図書 一日(火) 伴野勤労者福祉センター

その上鳥帽子、下鳥帽子の裏側に地獄谷といって落ち込んだら出てこれないといわれている危険なところがある。前には屏風のようになり切り立った岩があり、

壬生沢追分場知沢に同じ湯の花の出る場所があるが、これは大鹿の釜沢の湯、喬木の小川の湯など同じ成分で、ひとつの脈をなしている。



湯場は岩の間から硫黄の湯の花が噴き出していて、昔はそこで風呂を沸かしては入ったそうで、腫物にはとてもよく効き治ったそうです。ずっと昔は獣たちもそのことをよく知っていて、傷ついた獣の治療場であつた。

湯場は岩の間から硫黄の湯の花が噴き出していて、昔はそこで風呂を沸かしては入ったそうで、腫物にはとてもよく効き治ったそうです。ずっと昔は獣たちもそのことをよく知っていて、傷ついた獣の治療場であつた。

時は昭和十三年四月二十七日のことでありました。その日は野田平三十三番の観音様の祭りの日でした。雲ひとつない晴れた実によい天気。祭りというので朝からみんなうきうきしていた。午前十一時頃のことだった。ものすごい大音響で鳥帽子の山裾、北側が山ぬけしたのだった。そして午後一時頃、再度の大音響。今度は南側が抜けたのでした。残念なことに、この山抜けで湯場が埋まってしまったのであります。

その中腹には向こう側が見える穴が開いている。そこを「穴だつ」と呼んでいる。少し下ると湯場がある。その湯場から穴だつにかけて昔は狼の集団の遊び場だった。残念なことに人に追われ今では一匹もいなくなつたが、今はカモシカが棲んでいて、ときどき餌を探しに人里まで出てくる。

湯場は岩の間から硫黄の湯の花が噴き出していて、昔はそこで風呂を沸かしては入ったそうで、腫物にはとてもよく効き治ったそうです。ずっと昔は獣たちもそのことをよく知っていて、傷ついた獣の治療場であつた。

湯場は岩の間から硫黄の湯の花が噴き出していて、昔はそこで風呂を沸かしては入ったそうで、腫物にはとてもよく効き治ったそうです。ずっと昔は獣たちもそのことをよく知っていて、傷ついた獣の治療場であつた。



炬燵の相槌とところどころ消へ初明り雑沓に居て一人なる 池田 美和 観梅の堤にゆらぎし駒岳の影 細井 恵子 恙なき余生を願ふ初明り 吉川 明子 清句碑山の眠りにしたがへり 河手 洋子 北原 昭子

〈とよおか短歌会〉

凍てつく日も水道工事始まりぬ水守らむとす人らに感謝 筒井 恵子 霜の畑なずなを採りて粥に入る湯気立つ香り鮮やかな青 福澤貴美恵 コロナ禍で孫ら来られぬ正月はいつもと違い賑わいもなく 壬生 千春 この春は出掛けずしやべらず温和しく離人形になりたる思い 松尾ヒサコ

正月に「花れしよう」と誘えども「あとで」と孫はスマホに見入る 大原真由美 万葉の古都にて独り朋遊きぬ令和の謂れ罷太鼓にのせ 福澤 郁文

苦も楽も心次第と思ひより庭に咲きつぐ老梅芳し 毛涯百合子 「処分」とは物に使用する言葉にて切れば血の出る鶏には向かず 福澤 亀人

「処分」とは物に使用する言葉にて切れば血の出る鶏には向かず 福澤 亀人

老いの意地自分の意志は明確に 西元 峯子 新札の顔は確かに相応しい 山本 義彦 体力の確かな低下柿のムチ 原 美風 軸吟：行く先をしかと確かめられず行く 市沢 照子

軸吟：行く先をしかと確かめられず行く 市沢 照子

軸吟：行く先をしかと確かめられず行く 市沢 照子

軸吟：行く先をしかと確かめられず行く 市沢 照子

軸吟：行く先をしかと確かめられず行く 市沢 照子

軸吟：行く先をしかと確かめられず行く 市沢 照子

～シリーズ～ 豊丘の自然

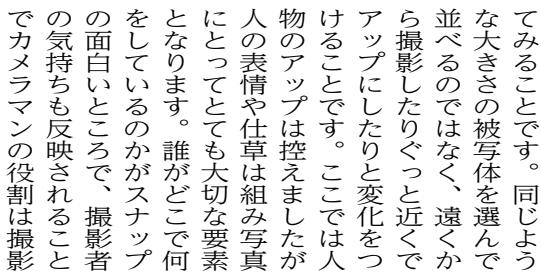
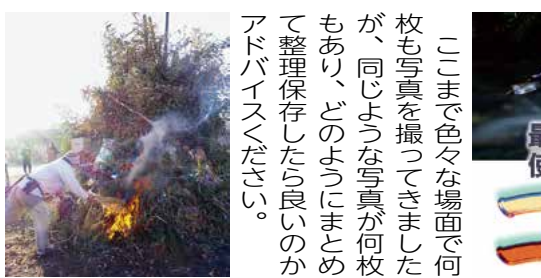
No.217

ウラナミシジミ
(シジミチョウ科)



「長野県産チョウ類動態図鑑（一九九九）の改訂版は今後、出版されるだろうか。分布図（百二十の市町村別）と成虫の初見日、終見日が全種にわたって書かれているすぐれものだけに願うところ。ツマグロヒョウモン、ウラナミシジミ、アサギマダラの昨年の初見日、終見日が気になったので調べてみた。すると、初見日は⑥/16が4/14、⑦/22が

6/15、⑦/13が5/12、と軒並み早くなっていた。終見日はアサギマダラは10/30で同じだったが、⑧/15が12/22、⑨/11が12/15と遅くなっていた。初見日が早まり、終見日が遅くなったことで、確認できる期間が⑩/13日が25日、⑪/15日が184日、⑫/17日が172日と長くなった。これは昨年だけの事なのか、最近の傾向なのか、地球温暖化と関係があるのか、今後、注視していきたい。（山田 拓



（監修：宮下正弘）

昨年、SDGsをマスコミや、広告等で多く取り上げられ、見かけるようになりました。日本国内における認知度も高くなり、長野県内でも活動に取り組む企業、学校、自治体が増えています。本校、一学年では、三年間を通してSDGsの取り組みを『総合的な学習の時間』の柱に据えて学習をしています。SDGsの取り組みから資料の活用や分析力、プレゼン能力やコミュニケーション能力の向上、アイデアを形にしていくなど実社会で必要な能力を身につけながら、将来様々な分野で活躍できる人材へと成長してもらいたいと願っています。二〇三〇年まで全世界で取り組んで

いるこの活動に参画することで、グローバルな視点をもち、私たちが住んでいる豊丘村の活動から日本へそして世界へ発信していきたいと考えています。誰もが住みやすく、持続可能な社会の実現のために、生徒たちは今年度SDGsの活動を知ることから始めました。一学期には、市澤豊丘村公民館長より、SDGsについての講演をいただきました。生徒たちは「新しいことを始める」のではなく、「今あることに少し工夫を加える。そして意識をして取り組む」こと、例えば自分の委員会活動が十七の開発目標のどれにあたるのか、それを考え行動するだけでなく社会は変化していくということを知りました。自分たちに何ができるのかを考える機会となりました。

二学期には、玩具メーカー「タカラトミー」の協力によりオンライン講座を行い、企業のSDGsの取り組みについて教えていただきました。小さな人形の部品、例えば靴などにはなめると

「買物にエコバックを持参した五百ドルもらう」など身近な話題から、マスマ目をつくることで意識を高めていこうという活動を行いました。また、十二月には飯田西中学校とオンラインで交流会を開き、開発目標の十七「パートナーシップで目標を達成させよう」と結びつけ、他の学校の活動の様子を知り、自分たちにできることを探し始めました。一年目は「知る」という



（監修：宮下正弘）



「税金についての作文」
豊丘村租税教育推進協議会長賞
豊丘中学校三年一組
我如古幸輝
数年経つごとに少しずつ消費税が上昇している。消費税が10%になったとき、ぼくは親からもらったお金でいつも通りお菓子を買い、うとしたら買えなかったという出来事を思い出した。そこでぼくはなぜ、消

費税を上げなければならぬのか疑問になった。そこでぼくは税金がなければどうなるのかを考えた。税金がなければ、学校の授業料を自分で払わなければならぬ。中学生では、年間に百万円もかかるそうだ。そうなる、学校に行きたくてもいけない人がでてくる。図書館やゆめあてなどの公共施設もなくなってしま

う。ぼくは中学生になり小説やマンガを読むのが好きになった。そういった本を読むため自分で買って読んでいたお金がなくなり、何十冊も読めなかったらどう。税金がなければ、勉強を教えてもらうのも本を読むにもお金がいるのだ。

また、豊丘には毎年誕生日の日に本をもらうことができる。それは村が税金で負担してくれているからだ。税金がなければ、誕生日本をもらうことができず、今まで誕生日本をきつかけに本を読み始めた人もい

かったことになってしまう。村は子供達に本を読んでほしいと思っているのに、これを機に本を読まない人が増えてしまうかもしれない。他にもぼく達の生活の中で税金がなければ困ることがたくさんある。警察官や消防士を呼ぶときにもお金がかかってしまう。道路工事がささず、ゴミもかたづけられない。ぼく達が今、当たり前前に暮らしているこの生活ができなくなってしまうのだ。公共のサービスが全て有料になると、お金がある人だけが豊かに暮ら

せる生活になってしまう。お金がないと不自由な生活を送ることになる。日本の国の中で、貧富の差が大きくなってしまいうる。このようなことを考える。国民が払う税金には大きな意味があることが分かる。公共サービスをを行うための費用は、税金によってまかなわれている。つまり税金を支払うことによって、ぼく達の生活は支えられ、豊かで安心した生活ができているのだ。

しかし、現在の日本では、少子高齢化が進み働き手が減っている。所得税が減るけれど、社会保障の費用は増えている。国の収入が減ると、どこかでそれを補わなければならない。そうすると、消費税を上げる必要がある。このようにぼく達は、税についてもっと関心を持ち、どのように使われているかわからない。税金が正しく使われているか考えていかなければならない。今までのように無関心ではいけないのだ。ぼく達も社会の一員だという自覚と責任を持つ必要があると思う。